

10月の果実の見通し

令和2年9月30日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
西洋なし類	山形 ほか	568	100%	682	333	平年並み	327	398	70.1	10月上旬から順次、山形県産「バラード」「メロウリッチ」、長野県産「ラ・フランス」、北海道産「オーロラ」「ブランディワイン」の販売開始。下旬からは主要アイテムである山形県産「ラ・フランス」の販売が始まる。 全体的に干ばつの影響を受け、前年と比べて若干小玉傾向。
日本なし類	栃木 茨城 千葉 福島 ほか	3338	70%	3378	311	高い	286	13	0.4	「豊水」の販売は9月でほぼ終了。 10月上旬は、「新高」「あきづき」中心、中・下旬は「新高」「にっこり」「南水」が本格化する。 4月の低温の影響で着果量は平年に比べて少ない。例年10月は販売に苦戦するが、出荷量が少なく引き合いは平年より強まる。
ぶどう類	長野 山梨 岡山 ほか	3020	90%	2654	1120	高い	1051	162	5.4	9月の主力産地の山梨県産は10月上旬でほぼ終了。 主力産地は、「種なしピオーネ」は岡山県へ、「シャインマスカット」は長野県へ切り替わる。 「シャインマスカット」は前年に比べて若干少なくなるものの、貯蔵物向けは平年以上に確保される。
かき類	和歌山 奈良 福岡 ほか	8399	95%	9066	247	高い～平 年並み	242	125	1.5	8月の高温の影響で果肉先行型となり、収穫が若干早くなっているが生育自体は順調。9月下旬から「たねなし柿」が出荷ピークに入る。 「早秋柿」の出荷量は前年に比べて少ないが、「大秋柿」は前年並み～若干多い見込み。 愛知県産「筆柿」「次郎柿」が始まり、下旬には早場産「早生富有柿」がスタートする。 かき類全体では小玉傾向のため、出荷量は少ない。
りんご類	青森 長野 ほか	7500	100%	7788	293	平年並み	293	1035	13.8	10月は中生種の入荷が順次始まり、販売アイテムに広がりが出てくる。また、食味も安定してくるため、荷動きが活発になることが期待される。 夏場の高温の影響で日焼け果の発生が見られたが、現時点では平年作と順調で玉流れも36>32=40玉と良好。各産地とも大きな気象災害もなく、前年に台風被害を受けた長野県産、雹害を受けた山形県産ともに平年並みの数量に回復。 全体では入荷量、価格とも平年並み。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)